

# さんきゅうパパプロジェクト

産後に休みを取る「さんきゅうパパ」が増えると、  
家族に、企業に、社会に、笑顔が増える。

かけがえのない命が誕生するときに、家族が時を共にし、  
絆を深め、家事や育児をするきっかけにしていこう。  
また、これまでの働き方や生活を見直してみよう。

出産直後の大変な時に、  
パパがそばにいてくれるだけで心強いシーンはいっぱいあります。

「さんきゅうパパプロジェクト」は、ママの産後2か月以内の  
パパの休暇取得を促進していくことを目指しています。

この冊子では、「パパが休む必要があるの？」  
「休暇を取って、何をすればいいの？」といった疑問に答えていきます。

妊娠中からご夫婦で読んで、これからの未来を話し合うきっかけに。  
また、企業のご担当者は、男女の働き方改革とあわせ、  
産後の休暇の必要性を理解し、  
休みやすい環境づくりの推進に向け、ご活用ください。



パパが産休 家族にサンキョウ



さんきゅうパパ  
プロジェクト

「さんきゅうパパ」は産後に休みを取るパパの  
ことをいい、「さんきゅう」は、「産休」と  
「Thank you(ありがとう)」を示しています。

## ●ロゴマークについて

パパが休暇を取ることで、産んでくれた妻に、  
生まれてきた我が子に感謝をし、結びつき  
を強くしようという意味を込めています。

## ●ロゴマークの使用方法

活動に賛同する企業、団体、個人は、使用規約  
の範囲内で、ポスターやグッズ、イベントなど  
に自由にご活用いただけます。

◎詳細はこちら

[http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/sankyū\\_papa.html](http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/sankyū_papa.html)

## こんな日に、休暇を取ってはいかがでしょうか

### ◎子供が生まれる日 ◎子供を自宅に迎える日 ◎出生届を出す日

男性には、女性のような産後休業の制度はありませんが、育児休業を取得できるほか、企業によっては「配偶者出産休暇」等の特別休暇を取得できる場合もあります。

早めに計画を立て、事前に職場の上司や人事担当に相談をしておくことが重要です。

長い休みは取れないという方も、まずは3日、休暇を取ることを目標にしてみてください。

※育児休業は、子が1歳になるまでの間、連続したひとまとまりの期間、1人の子につき1回の取得が原則ですが、父親が産後8週間以内に取得した場合には、同じ子について再度育児休業を取得できます。詳細は厚生労働省ホームページ「育児・介護休業法について」をご覧ください。<http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/07/tp0701-1.html>

## 2020年に80%が目標

内閣府では、配偶者の産後2か月以内に半日又は1日以上休み（年次有給休暇、配偶者出産時等に係る特別休暇、育児休業等）を取得した男性の割合を、2020年には80%とすることを目標として\*、啓発活動を行っています。

「少子化社会対策大綱」（平成27年3月20日閣議決定）の数値目標

※民間調査によると現状50%弱。